

## 子ども図書館（仮称）設立の考え方（三隅分室）

### 1. 子ども図書館の設立目的

#### ■チェックポイント

図書館で何をする、何をめざすための図書館設立か？

① 図書館を設立することそのものが目的となっていないか。

（考え方）

大きな目的は、読書環境を整備することであり、市民誰もが、読書したくなる環境を整備することが必要と考えている。したがって、読書人口や利用者を増やしていくためには、子どもを含めた市民が利用しやすい場所など読書環境を整えていくことが必要であり、そのためには図書館設立そのものも目的のひとつになっている。

② 図書館のみならず、何をする、何をめざすかを明確にした上で施設を設立するのが適当。要するに、“中身を考えて器を考える”ことが肝要であり、それが検討されているか。

（考え方）

中身と器を同時に考えながら進めていきたい。

子どもから高齢者まで全世代で利用できる図書を整備を目指す中で、特にこれからの時代を担っていく子どもに視点を置いたソフト事業も展開していきたい。

中身の概要については、次のことを検討している。

- ・ 情報発信の場～子ども（読み聞かせ、お話し会、パネルシアター、ブックスタート、読書相談など）
- ・ 交流の場～ 異世代交流（昔話、回想、季節の行事など）  
全世代交流(展示会、講演会、映画会など)

③ 読み聞かせ活動が行われていることは大いに意義深い活動である。また本に親しむことは重要である。子ども図書館がないと、それらを推進する上での問題点、支障があり、また必要性が検討されているか。

（考え方）

読み聞かせ活動を行うだけであれば、図書館は必要としない。しかし、読み聞かせを含めた総合的な読書活動を行うためには、図書館が必要となる。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないものである。(子どもの読書活動の推進に関する法律)

さらに、図書館職員、ボランティアを含めたスタッフが集まり、課題や問題点の整理やあらたな活動など協議、検討する場として拠点となる施設が必要である。

活動内容

- ・ ボランティアの学校・福祉施設などへの派遣
- ・ ボランティア育成のための研修会
- ・ 各種団体との連携ネットワーク化

④ 蔵書を増やすことが重要なのか、読み聞かせを行うことを第一義とするのか、常に開館されている図書館施設が求められるのか、子どもに読み聞かせを行う重要性を親に教育することを推進したいのか、1か所に多くの蔵書がある図書館がないとならないのか、図書を検索を容易に行えることが重要なのかといったことが検討されているか。それらの中で、特に何に取り組むのかということと、子ども図書館設置の目的は重要な関係にある。

(考え方)

子どもから高齢者まで各世代に応じた図書サービスを実施するため、ニーズに応える蔵書数を整備し、常に開館されている図書館を目指す。図書館整備の大きな目的は、旧三隅町から築いてきた「生涯学習による人づくり・まちづくり」であり、読み聞かせや親の教育などは、活動の一部と考えている。また、住民が求める情報を確実に提供する町の情報センターとしての位置づけを考慮すれば、図書の検索を容易にすることも重要な条件となる。

## 2. 他施設との関係

### ■ チェックポイント

学校図書室との関係、他の施設利用の可能性が検討されているか？

① 学校にも図書室があるが、学校図書室の設置目的が整理され、子ども図書館との関係を検討されているか。

(考え方)

学校図書室は、「学校図書館法」で設置が義務付けられており、対象は児童・生徒・学生で、学校の教育課程の展開に寄与し、子どもの自立を目指す。

公立図書館（子ども図書館）は、「社会教育法」「図書館法」で定められており、生涯学習を知的サポートし、学校教育を援助・補完する。一般公衆を対象とし、地域の自立を目指すものである。

学校図書室と子ども図書館との関係については、今後、図書館整備検討委員会の中で連携や役割分担などを検討していく。

② 学校の図書室の蔵書を増やすことは、読書を普及・推進する手段とはならないのかどうか検討されているか。

(考え方)

学校の蔵書を増やすことのみでは、人的配置の問題や図書整理の面からも読書の普及・推進する手段とはならない。基本的な本は各学校に配置すべきであるが、専門性の高い本や高価な本などは、子ども図書館に配置し資源を共有化することにより、重複を避けることができる。また、総合的な学習に対応するため、子ども図書館に配置される専門司書が各学校に適切なアドバイスを与えることも可能となる。

これからの公立図書館に望まれることの中に、「学校との連携」があり、互いに連携、補完しあい読書の普及・推進を目指したい。

③ 毎年40名程度しか出生がない中、施設の費用対効果が検討されているか。あわせて、学校の教室、他の施設で空き部屋ができることも想像できるが、長期的視点から、そういうことが検討され、他の施設利用が検討されているか。

(考え方)

出生40人という三隅自治区の人口のみを考えるのではなく、市民全体のレベルアップを考え「人が輝き、文化のかおるまち」を推進していくためには、図書館はなくてはならないものと考えている。

また、長期的視点から次の施設利用について検討した。

(1) 三隅支所の3階

耐震構造がなされてなく、子どもを含む一般市民が常時来館するのは危険が伴う。さらにエレベーターがあるとはいえ、3階という場所には、来館を期待するには無理がある。また、建物構造上から防犯面において不備が多い。したがって、総務課と協議の結果、施設利用は困難との結論に達した。

(2) 学校図書室や空き教室

学校図書室は、学校以外の子どもや一般市民が来館しにくく、部屋も狭い。改修するにしても、多額の経費を必要とする割には、学校というイメージから利用者は少ないと考えている。また、学校の安全面から一般市民が校舎へ自由に入出入りすることは困難と思われる。

(3) 公民館図書室の充実

公民館図書室は、規模が小さく、蔵書も少なく、施設利用者が利用することになっている。また、機能的にも異なっており、公立図書館の主な役割であるレファレンス業務(情報案内)ができないため、投資費用の割には効果の乏しいものになることが予想される。

(4) カルチャーホールの改修

三隅小学校が隣接しているときは、カルチャーホール利用者も多かったが、閉校と同時に利用者が激減しており、場所的な問題があると思われる。多額の改修経費を必要とする割には、効果は乏しいものとなることが予想される。

### 3. 子ども図書館の管理運営について

#### ■チェックポイント

施設設置後の管理運営のことについてよく検討されているか？

① 子ども図書館を開館する時間帯、子どもは学校の授業中であるが、その間の施設利用はどうか検討されているか。

(考え方)

子ども図書館は、子どもを主体とした概念であり、対象は子どもから高齢者までの全世代を考えており、学校の授業中も、市民の来館は十分見込めると判断している。

② 公民館施設でやっと3人体制を要求しようとする中、図書館に3人配置する必要性が、その業務量、業務内容等から検討されているか。

(考え方)

常時3人必要とは考えていない。維持管理経費削減のために効率的な配置を検討する。例えば、平日の午前中は1人とか館長は半日とかで経費の削減を考えていく。

- ③ 自治区制度がなくなった後も、施設の維持管理経費を支出することについて、市全体のコンセンサスを得られているか。

(考え方)

現段階では、市全体のコンセンサスは得られていない。子ども図書館整備は、地域協議会などの意見を聞く中で、市長や自治区長が政策的な判断で実施するものであり、その方針に従って維持管理経費が支出されると考えている。

- ④ 施設設置後の利用についての見込みが検討されているか。

(考え方)

施設設置後の利用見込みなどについては、図書館整備検討委員会において、図書館運営計画または読書推進計画といったものを策定し、その中で反映させていきたい。

#### 4. 他の社会教育施設との連携について

##### ■ チェックポイント

公民館等其他の社会教育施設との連携が検討されているか？

- ① 三隅小学校付近に建設することによって、他の社会教育施設との連携はどうかを検討されているか。また教育委員会三隅分室との連携はどうか。

(考え方)

教育・文化・スポーツゾーンに建設することにより、児童・生徒や一般市民も利用しやすくなり、学校・文化施設との連携はとりやすくなる。

さらに、子ども図書館開館後も、社会教育施設、学校、福祉施設、行政などの代表者で組織する運営委員会を立ち上げ、連携を図っていく考えである。

- ② 公民館にも図書室が設置されており、それぞれの公民館の蔵書を増やすことと、子ども図書館の蔵書を増やすことの違い、その効果等が比較検討されているか。

(考え方)

子ども図書館と公民館の適正な蔵書や効果については、運営委員会や連絡会議などでお互い連携を密にし、対応していく考えである。

- ③ LOVE BOOK (ラブブック) 号との関係は整理されているか。

(考え方)

ラブブック号との関係についても、本来の目的は異なっているが、お互いに連携を密にして対応していきたい。